

平成27年11月17日(火) 5校時  
場所 発見の森図書館

1 単元名 聞いて 聞かせて まちのすてき

2 単元のねらい

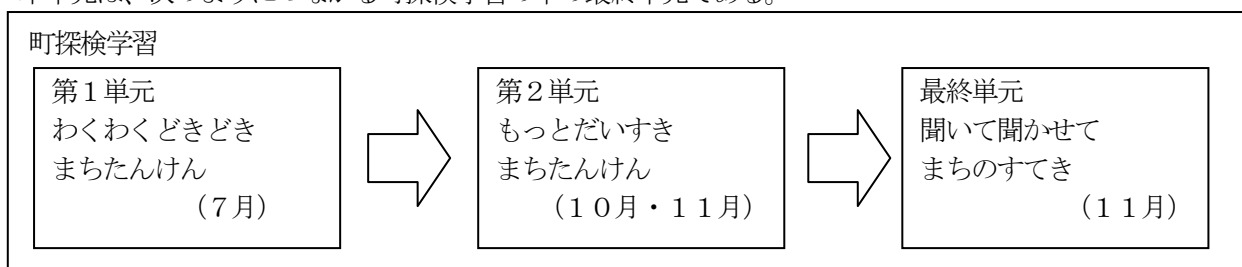
- 地域でかかわった人のことや、町探検を通して分かったことや心に残ったことを友達や地域の人々と伝え合おうとする。 【生活への関心・意欲・態度】
- 地域でかかわった人や全校児童に町探検を通して分かったことや心に残ったことが伝わるように、表現の仕方を工夫しながら新聞作りや発表の準備をする。 【活動や体験についての思考・表現】
- 身近な人々とかかわることや自分の思いを伝えることの楽しさが分かり、地域への愛着が増したり人々と進んでかかわることができるようになったりした自分に気付く。 【身近な環境や自分についての気付き】

3 単元設定の理由

(1) 教材について

本単元は、学指導要領の内容(8)「自分たちの生活や地域の出来事を身近な人々と伝え合う活動を行い、身近な人々とかかわることの楽しさが分かり、進んで交流することができるようにする。」及び(3)「自分たちの生活は地域で生活したり働いたりしている人々や様々な場所とかかわっていることが分かり、それらに親しみや愛着をもち、人々と適切に接することや安全に生活することができるようにする。」に基づいて構成している。

本単元は、次のようにつながる町探検学習の中の最終単元である。



第1単元では、仁万地区内を探検し、地域のどこにどんなものがあるか、地域の誰がどんなことをされているかを調べた。身近にある施設や出会った人について、その施設の職員や地域ボランティアから話を聞くことで、それまで知らなかったことを知り、「もっと町のことを知りたい。」という思いをもつことができた。

第2単元では、第1単元で見つけた場所で児童の希望が多かった所の中から、S 医院、仁万まちづくりセンター、いずもや、仁万漁港の4カ所にグループに分かれて探検し、『とっておきのひみつ』を見つける活動を行った。『とっておきのひみつ』とは、児童が「いいな。」「すごいな。」「大切だな。」と強く思ったことがらである。

S 医院の先生は、本校の学校医である。本校の近くに医院があり児童の中にはS 医院で受診している者が多い。高学年の児童に向けて講演をされるなど学校教育に対してとても協力的である。S 先生からは、医師としての仕事だけでなく、患者さんや子ども達、そして地域に対する思いを知ることができる。

仁万まちづくりセンターは、様々な地域講師の方をお呼びする際に大変お世話になっている。児童にとっても、ハロウィンパーティーなどの行事、本校での読み聞かせ活動などで直接お世話になることが多い。まちづくりセンターの活動内容だけでなく、仁摩町をより良くしたいという思いについても知ることができる。

仁摩町は海に面しており、児童の家族や知人の中には漁業関連の仕事に就いている人が多い。そのため、漁師は児童にとって比較的身近な仕事である。漁港に行くと漁師の人の話を聞くことで、魚を買う人への思い、海に対する思い、海の環境を守るための工夫、漁の仕方、捕った魚の売り方、地域の海の良さなどに知ることができる。

いずもやは、魚介類をかまぼこや干物などに加工して販売する商店である。地元で捕れた新鮮な魚介を使って製品を作っている。野焼きを作る作業を店外から見られるようにしてあったり、季節毎に店内を飾り付けた

りとお客さんのために様々な工夫をしている。お客さんに対するサービス精神や地域の海産物への思い、販売や商品作りのための工夫について知ることができる。

本単元では、第2単元の町探検で児童が見つけた『とっておきのひみつ』を新聞にまとめたり、劇やペープサート、クイズなどで発表したりして、地域の人や他学年の児童と交流する活動を行う。

新聞はたくさんの情報を伝えることができる。そして、掲示することで多くの人に見てもらえることができる。このような特長がある新聞は「もっとたくさんのことを伝えたい。」「仁摩町の良さをたくさんの人に伝えたい。」という児童の思いに合ったまとめ方である。また、全校児童に伝えることを意識して書くことで、児童が記事や見出しの表現を工夫することができる教材である。

劇やペープサート、クイズなどは伝える相手と向き合っていく発表方法である。発表を見てくれる人と向き合うことで、児童は言葉だけでなく、表情やしぐさ、態度などでも町探検で感じた思いを伝えることができる。また、発表を見てくれている人の表情やしぐさや態度から、児童は「真剣に聞いてくれているな。」「うれしそうにしてくれているな。」と相手の気持ちを感じ取ることができる。こうした感情の交流を経験することで、見てくれた相手に親しみを感じたり、自分たちの地域への愛着を深めたりすることができるため、劇やペープサート、クイズなどで伝えることは、本単元のめあてを達成するために適した発表方法である。

町探検で地域の人や場所について調べるということは、学校図書館情報活用能力の「情報の収集」に関連する内容である。また、伝えたいことを整理するということは、「整理・分析」「必要な情報を選ぶ」「学習したことをまとめる」に関連する内容である。そのため、町探検や新聞作りは、司書教諭や学校司書と連携することで情報の収集・整理する力やまとめる力をつけることができる教材である。

## (2) 児童について

(省略)

## (3) 指導について

児童は、これまでの町探検の活動によって「自分が見つけた『とっておきのひみつ』をもっと多くの人に伝えたい。」という思いを強くしている。本単元では、児童の伝えたいという思いを受けて、お世話になった地域の人や全校の児童に『とっておきのひみつ』を伝える活動を行う。新聞を作ったり、劇やクイズ、ペープサートなどで発表したりすることで、児童に新聞を読んでもくれる人や発表を見てくれる人に伝わるように表現を工夫させたい。また、新聞を読んでもくれた人や発表を見てくれた人が共感してくれたと感じることで、自分の思いを伝える楽しさを感じ、町探検で出会った地域の人の思いや工夫、地域の良さなどの素晴らしさを改めて感じ、地域への愛着を強く感じさせたい。

第一次では、児童の伝えたいという思いを引き出し、誰に伝えたいか、どのような方法で伝えたいか考える。伝えたい相手は、他の学年、家族、お世話になった地域の人などが挙げられると考えられる。発表の方法は、クイズ、劇、紙芝居など、児童に馴染みのある方法が出ると考えられる。いろいろな人に伝えたいという児童の思いを受けて、12月の人権集会があること、人権集会での発表時間、多くの保護者が集会を見に来られることなどを伝え、どうすれば集会の会場で多くの人に伝えられるか考える。「クイズを貼る。」「写真や絵を貼る。」「新聞を貼る。」などの方法が出ると考えられる。児童が考えた方法の中から、たくさんの情報を伝えることができる、掲示することで多くの人に伝えられるやり方はどれか考え、新聞の形でまとめて人権集会で掲示することにする。児童の「伝えたい」という思いに最も合ったまとめ方を考えることで、児童が新聞を作ることに意欲的に取り組むことができるようにしたい。また、第2単元で『とっておきのひみつ』をクイズで発表していることから、児童が相手に直接伝えたいという思いを持つと考えられる。そこで、児童の思いや、クイズ、劇、紙芝居など児童が考えた方法を活かせるように、1組や地域の人に発表する機会と他学年の児童を招待して発表する機会を設ける。

第二次では、新聞作りの活動を行う。新聞の記事や見出しで自分が何を書きたいか考えることは、町探検の活動で自分にとって一番大きな気付きや感動が何であったかを振り返ることにつながる。これまで行ったクイズ作りと同様に、児童が見つけてきた『とっておきのひみつ』を書かせたい。書く際には、必要に応じて探検の際の写真やメモ、前単元で作ったクイズ、探検先の資料などを参考にしたり、グループの友達と話したりして『とっておきのひみつ』を思い浮かべながら記事を書かせるようにする。全校児童に伝える新聞であることを確認し、児童にどのような表現で記事を書くか工夫させたい。第二次の最後に、グループで新聞名を考える活動を行う。新聞に書かれているその人や場所の良さ、工夫、思いを振り返り、児童に自分たちなりの言葉で

新聞名にまとめさせることで、その人や場所の良さや思いが伝わる表現を考えさせる。その後、新聞作りの活動を通しての感想を書く。

第三次では、町探検でお世話になった人や他学年の児童に発表会を開く。『とっておきのひみつ』をクイズ・劇・ペープサートなどで発表したり、新聞を紹介したりして、町探検で分かったことや感じたことを色々な人楽しく伝えるようにする。お世話になった地域の人に対しては、招待状を書き、1組と2組での発表会に招待して発表会を行う。お世話になった人にそれぞれのグループがクイズ・劇・ペープサートなどで発表し肯定的な感想を言うってもらうことで、児童がこれまでの学習に対して達成感を持ち、地域の人への親しみや地域への愛着が高まるようにしたい。全校の児童に対しては、12月の人権集会で、町探検で見つけた『とっておきのひみつ』について紹介し、昼休みなどに教室に招いて発表をする。発表形態は、本学級の教室に4つのコーナーを作り、それぞれのコーナーを見に来た人に対して地域の人に行った発表と同じものを見てもらう。繰り返し発表し、相手から直接感想を伝えてもらうことで、自分の思いを伝える楽しさ、伝えたいことが発表を見てくれた人に伝わる喜びを感じさせたい。また、新聞や発表を見た人が共感してくれたと感じることで、自分たちが見つけた地域の良さを改めて感じさせたい。

本時では、記事に見出しを付ける活動を行う。これは学校図書館情報活用能力の「学習したことをまとめる」に関連する内容である。そこで、司書教諭・学校司書と連携して授業を行う。

導入部分では、児童に見出しについて理解させるために、新聞を使った2つのゲームを行う。まずは、見出しのある新聞とない新聞を使って「記事探しゲーム」をすることによって、見出しがあることでどこに何が書かれているか読む人に分かりやすくなることを理解させる。その後、「見出し比べ」をする。司書教諭が1つの記事に対して、「内容に関係ない見出しと関係ある見出し」「長い見出しと短い見出し」など2つの見出しを示し、どちらが良いか考えさせる。良いと思った理由を発表することで、記事の内容が分かる、短くまとめるといった見出し作りのポイントを理解させる。

次に、一人一人で見出しを考える活動を行う。作成中の新聞を教室に掲示し、それらを見ながら見出しを考えさせることで、児童が町探検の時の様子や、探検で分かったこと、感じたことを思い浮かべながら活動することができるようにする。記事や資料をじっくりと読みながら見出しを考えられた方がよい児童には、記事のコピーや町探検の際の写真などを渡す。一人一人で見出しを考える活動の時、担任、司書教諭、学校司書の3人で協力して机間指導し、見出しを考えることができた児童や、見出し作りに困っている児童を把握する。見出し作りに困っている児童については、次のグループ活動の際に子ども達同士で相談して見出し作りを進めていくため、担任・司書教諭・学校司書で把握した児童の状態を情報交換する。

その後、グループで自分たちの新聞の見出しを読み合い、困っている友達の見出しを一緒に考える活動を行う。どんな思いを持ってその見出しを作ったか、あるいはどんな思いを見出しにしたいか困っていたかを児童一人一人に自分の言葉で語らせたい。担任は、見出しを考えることができた児童につく。どうしてその見出しにしたか、友達の見出しをどう思ったか教師が問いかけ、児童の思いや工夫友達の見出しの良さを児童自身の言葉で語らせたい。司書教諭と学校司書は、見出し作りに困っている児童につき、その児童の記事を同じグループの児童に読ませて見出しを考えさせる。見出しに困っている児童は、友達の考えた見出しをワークシートにメモし、その中から自分の思いに近い物を選ぶ。その活動を通して、困っていた児童も、見出しができた満足感を味わえるようにしたい。

グループ内で読み合う活動の後で、決まった見出しを短冊に清書し、新聞に貼りつける。

本時の最後には、「見出し作りの感想」「友達の考えや表現について感じたこと」などの視点で振り返りをする。見出しができた達成感や友達の思いや良さを交流することで、以降の学習への意欲を高めたい。

5 単元指導計画と評価計画（全11時間 本時5／11時間）

単元の評価規準	生活への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や 自分についての気付き
小単元の評価規準			
単元の評価規準	町探検で分かったことや感じたことを、友達や地域の人に伝えようとしている。	伝える相手を思い浮かべながら、分かったことや感じたこと、感謝の気持ちが伝わるように表現の仕方を工夫している。	地域の人の思いや工夫、地域の良さに気付いている。 身近な人々とかかわる楽しさや自分の思いが伝わる楽しさが分かり、互いに交流することの良さに気付いている。
第一次 まちのすてきを伝えよう 1時間 ＜主な学習活動＞ ・第2単元を振り返り、もっと発表したという気持ちを持つ。 ・どんな発表をしたいか考える。 ・教科書を見てまとめ方を探す。 ・新聞について知る。	町探検で知った地域の人や場所の良さを、たくさんの人に伝えようとしている。	町探検で分かったことや感じたことを振り返り、新聞に書くことを選んでいる。	様々な仕事をしている人が、それぞれの思いを持って自分の仕事に熱心に取り組んでいることに気付いている。
第二次 まちのすてき新聞を作ろう 5時間 ＜主な学習活動＞ ①②③ ・新聞に書くことを分担する。 ・新聞の記事とイラストを書く。 <u>情報の整理・分析</u> ④記事の見出しを考える。(本時) <u>情報のまとめ方</u> ⑤新聞名を決め、感想を書く。	地域の人々の思いやしていることを新聞の記事や見出し、新聞名を通して伝えようとしている。	分かったことや感じたことが伝わるように、町探検でかかわった人や新聞を見る人を思い浮かべながら新聞作りに取り組んでいる。	
第三次 まちのすてきをつたえよう 5時間 ＜主な学習活動＞ ①発表会の計画を立てる。 ②③発表の練習をする。 ④お世話になった地域の人を招待して、1組と2組で一緒に発表会をする。 <u>情報の発表</u> (課外) ・他学年を招いて発表会をする。 ⑤振り返りをする。	招待した人々や全校児童に対して、地域の良さを進んで伝えようとしている。	見る人の気持ちを考え、態度や表情、発表や表現の仕方を工夫して自分の思いを伝えている。	自分が見つけた地域の良さが色々な人に伝わる楽しさや、伝える活動を通して地域の人々とかかわることの楽しさに気付いている。

6 本時の活動

(1) 本時のねらい

町探検で分かったことや感じたことが伝わるように、自分が伝えたいことを思い浮かべながら見出しを考えることができる。(思考・表現)

(2) 本時の展開

学習場面と児童の取組 * () 内は時間 (分)	学級全体への支援・留意点			評価 (評価方法)
	T1 (担任)	T2 (司書教諭)	T3 (学校司書)	
1. 記事探しゲームをする。 (1) 見出しのない新聞 (2) 見出しのある新聞 「2回目の方が、どこに書いてあるか見つけやすい。」 ③	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童の意欲を高め、本時で見出しを作るという見通しを持たせるために、作成中の新聞や町探検の写真などを掲示する。</li> <li>記事を見つけた児童に個別に声をかけ、どうやって記事を見つけたか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記事を見つけた児童に個別に声をかけ、どうやって記事を見つけたか確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童が見出しを考えやすいように、身近で関心のある記事が載った新聞を用意する。</li> <li>問題に関する記事を探す活動を通して、見出しがあることの良さを児童に感じさせる。</li> </ul>	
2. 見出し比べをする。 (1) 記事に関係ある見出しと関係ない見出し (2) 長い見出しと短い見出し ⑤	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援の必要な児童のそばで、一緒に見出しを考える。</li> <li>児童が考えた見出しを掲示する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>2つの見出しを比べさせることで、見出し作りの注意点を確認する。</li> <li>(1) 記事の内容が分かる。</li> <li>(2) 短い言葉でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>支援の必要な児童のそばで、一緒に見出しを考える。</li> </ul>	
3. 本時のめあてを確認する。 ②	児童の言葉でめあてを作る。			
「見出し」を作ろう。				
4. 自分が書いた文章を読み返し、見出しを考える。 ⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の席で記事を読みながら考えた方がやりやすい児童には、記事のコピーを渡す。</li> <li>見出しができた児童や、見出し作りに困っている児童を把握・情報交換し、グループ活動の際にどの教員がどのグループの支援につくか確認する。</li> <li>見出しができた児童には、どんな思いを込めてその見出しに決めたのか問いかけ、児童の考えや工夫を確認する。</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>伝えたいことを思い浮かべながら、自分なりの言葉で表現している。</li> <li>【行動の観察・ワークシート】</li> <li>伝えたいことを思い浮かべなが</li> </ul>

5. グループで見出しを伝え合い、検討する。⑩	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見出しがすぐできた児童が多いグループにつく。</li> <li>・どのように考え、工夫して見出しを作ったか発表させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見出しづくりに困っている児童の多いグループにつき、以下の支援をする。</li> <li>(1) グループの児童に見出しの案を考えさせる。</li> <li>(2) 見出しができなかった児童に、友達が作った見出しの中で自分の思いに一番合った物を選ばせる。</li> </ul>	<p>ら、自分なりの言葉で表現している。</p> <p>【行動の観察・ワークシート】</p>
6. 見出しを清書し、新聞に貼り付ける。⑦			
7. 本時の感想を発表する。⑧	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見出し作りの感想、友達との関わりで感じたこと、これからの活動への思いなどの視点を示して振り返りをさせる。</li> </ul>		

(3) 本時の評価

町探検で分かったことや感じたことが伝わるように、町探検の様子を思い浮かべながら見出しを考えている。

評価基準	十分満足できると判断される児童の具体例	おおむね満足できると判断される児童の具体例	支援を必要とする児童への指導の手立て
予想される児童の具体的な姿と支援	<p>記事や資料（メモ・写真）を読み返したり、友達と相談したりして探検の様子を思い浮かべながら見出しを考えている。</p> <p>できた見出しを見直したり比べたりして、伝えたいことがより伝わる見出しにしようとしている。</p>	<p>記事や資料（メモ・写真）を読み返したり、友達と相談したりして探検の様子を思い浮かべながら見出しを考えている。</p>	<p>・見出しをどのようにつけたらよいか分からない。</p>
		<p>グループでの話し合いで、他の児童の見出しを見て参考にさせる。</p> <p>どのように考え、工夫して見出しを考えたらいいか、児童の思いを引き出す。</p>	<p>グループでの話し合いで、他の児童の見出しを見て参考にさせる。</p> <p>他の児童が考えてくれた見出しの中で、自分の思いが一番近い物を選ばせる。</p>

(4) 授業研究の視点

- ・新聞クイズや記事を例示し見出しの意義や見出しの作り方を理解することは、相手を意識し、自分たちの伝えたい内容が伝わる見出しを考える上で有効な手立てであったか。
- ・図書館活用教育の視点を活かし、担任、司書教諭、学校司書が役割分担して授業を行うことは、生活科のねらいを達成するために適切であったか。

(5) 新聞作成計画

ワークシート②	ワークシート① *わかったこと・感じたことをワークシートに書いてはりつける。 (別紙ワークシート参照)	
① 振り返りカード	ワークシート⑥	ワークシート⑤
② 振り返りカード		
③ 振り返りカード		
④ 振り返りカード		

- 各グループ（4人）で模造紙1枚を使う。
- 各自がワークシート（別紙参照）に、町探検で分かったことや感じたことをまとめて模造紙に貼り付ける。
- 新聞名は、グループで相談して決める。決まった新聞名を○のカードに1文字ずつ分担して書き、模造紙に貼り付ける。
- 編集後記として町探検の活動（前单元及び本单元）の振り返りカードを書き、模造紙の左下に貼り付ける。